

地域協働 CBL news

VOL.13

[CONTENTS]

- ピックアップ!
- 2022年度活動報告
- 成果発表会出展一覧
- コラム

1 1
 5 6
 7 面
 8 面



PICK UP!
後期成果発表会開催!



令和5年1月19日(木) 20日(金)の2日間にわたり、後期成果発表会を開催しました。

ゼミや学生団体など13団体が今年度取り組んできた活動を、ポスターセッション形式で発表しました。今回は初のハイブリッド(対面とオンライン)開催でした。参加者からは「普段授業では学ばないようないろいろな発表が聞けて面白かった」「地域の問題点を明らかにしたり、解決しようという積極的な試みが垣間見えた」「今後さまざまな交流や協働をしてほしい」などの声が寄せられました。(一覧は6面へ)

— オンラインの画面 —



2022年度 活動報告

ラジオ音楽番組の協働制作

井戸教養ゼミII

井戸ゼミでは、地域に密着した情報や災害時の災害状況などを伝えるコミュニティラジオの役割を学ぶとともに、コミュニケーションを向上させることを目的に、エフェムいみずと協働したラジオの音楽番組制作を、平成28年度より継続しています。今年度は7月にスタジオを見学し社長の講話を聞き、後期に入りグループごとに企画・制作準備を進めました。その後、11月と12月の4週にわたってグループごとに収録を行い、番組を制作しました。一つのプロジェクトを仲間や地域の方と成し遂げることで様々な学びを得られたことに加え、パーソナリティの体験を通して、表現や伝える技術など、コミュニケーションに大切な要素を学ぶ機会となりました。



言語学習支援ボランティア

(特製英語トランプの作成および
 児童英語教室の実施)

山崎教養ゼミII

2020年4月からは小学校中学年へ「外国語活動」が本格的に導入され、高学年では「教科」としての英語教育が実施されています。そこで、山崎教養ゼミでは、「地域のため」に何ができるのか?という疑問から、太閤山児童館と協働し、「言語学習支援ボランティア」という形で児童にとって英語を習得するよい機会になるよう努めてきました。

まず、特製英語トランプを作成し、児童に贈呈しました。また、児童英語教室を実施し、英語トランプを用いて実演や発音指導、絵伝言ゲームや英語かるた等を行いました。

英語教育が普及する現代でこのボランティアはとても意味のあるものとなりました。今後この活動は継続予定です。



POLYGONのプロダクト紹介

POLYGON

POLYGONは、活動を通じて専門的な意識や技術を身に付け、高度なデジタル技術を持つ人材の育成を目的とした学生団体です。情報システム工学科を中心に医薬品工学科など、様々な学科のメンバー約30人で構成されており、主に「企業や行政、全学内の学生や他大学との連携」や「学生の知識向上を目的とした勉強会」などの活動に日々取り組んでいます。

県大祭での「TeaX」やクリスマスでの「DXmas」、七夕の「たなばーちやる」など、実用性とエンターテインメント性を兼ね備えたアプリを各行事に合わせて開発、公開してきました。現在、DXセンター内の最新の設備を利用したXR関連の学習のコンテンツとして、ダンス部と連携した活動を進めています。



小杉 de まちづくり con 古写真

小林教養ゼミⅡ

小林一也教養ゼミでは、身近な地域の「まちづくり」について考え、活動を行ってきました。

地元見学としてエフエムいみず、小杉展示館、十社大神、竹内源蔵記念館、新湊博物館などを訪問し、地元・小杉への理解を深めました。その際、小杉まちづくり協議会が進める小杉旧町（旧北陸道沿いの街並みの通称）における古写真（こしゃしん）を活用するための「古写真プロジェクト」を紹介され、協力することにしました。

活動の集大成として、12月17日にクリスマスパーティーを開催しました。目的は、小杉に住む子ども達が地元に着くと誇りを持てるような「楽しい記憶」を残すとともに、県外出身者を含むゼミ生がそれぞれの地元について改めて考えてもらうためです。出し物には、人間スゴクやお絵かき伝言ゲームの他に、ゼミ生が選んだ古写真を材料にした古写真カルタや古写真塗り絵を用意しました。

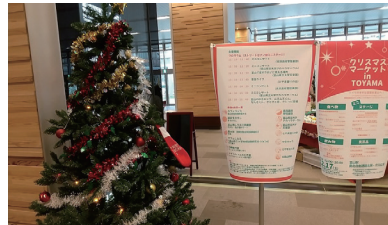


子供たち・ゼミ生には概ね好評で、古写真をきっかけに、地元について理解を深めることができました。

クリスマスマーケット in TOYAMA を開催して

金城教養ゼミⅡ

金城教養ゼミは、地域協働をめざした新しい形のクリスマスマーケット、ドイツの幸せな空間を富山へクリスマスマーケット in Toyama を開催しました。

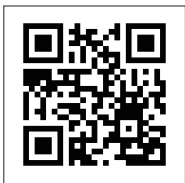


クリスマスマーケットに向けて、前期は、クリスマスマーケットについての講義を受けたり、ドイツ料理を作ったり、富山県の食について調べたりしました。後期は、カフェゴッコ店主広野美代子さんの「食」についての講演を聴いて、普段口にしていない「食」の大切さを知りました。また、「ますのすしミュージアム源」での鱒寿司づくり体験や、とやま土人形絵付け体験を通して、富山の伝統文化に触れることができました。クリスマスマーケット当日には多くの方が足を運んでくださりました。富山県の人と関わる事ができ、有意義な活動となりました。

未知への挑戦 ―素人1年生が作った富山県立大・高校生認知度UPビデオ―

清水教養ゼミⅡ

清水教養ゼミⅡでは、「富山県立大学」の知名度・認知度の向上を目的として、プロモーションビデオ（PV）の制作&SNSでの拡散プロジェクトを行いました。ターゲットは、県内外の高校生、保護者の方々でした。実は、このプロジェクトは前期ゼミで企業と協働した課題解決策を具現化したものでした。前期に北陸博覧会からの出された課題「インターネットメディアやデジタルデータを活用した富山県立大学の知名度・認知度の向上及び分析」の解決策を競い合った4チームの発表の1つがこのPV制作でした。後期15週は、前期で競い合った12名でPVを制作して、YouTubeでの公開を目指しました。PV制作を全くやったことのない素人集団のゼミ生には、まさに「未知への挑戦」でした。(株)IOTRYの加藤哲朗さんの大きなアシストのもと、毎週DX教育研究センターで先輩たちのすこさを感じた15週でした。



COCOSとは

COCOSとは、2014年4月に県立大が設置した学生団体です。COCOSの名前の由来は、COC (Center Of Community: 「地(知)の拠点」※) とOS (Operating System: 基盤) で、大学が進める地域協働の学生の主体として活動しています。地域の課題解決、魅力の発見、PRを行うため、地域の方々と対話や交流を重ねながら一緒に活動し、一緒に地域を盛り上げようとしています。

学内では、成果発表会の運営や地域協働の授業や取組みを支援するCOCTA (Teaching Assistant) も担っています。

※ 2013年から本学が採択された文部科学省による「地(知)の拠点整備事業=COC事業」より



DX/IoTを活用した県内水道管に適した漏水検知システムの探索

寺島研究室

寺島研究室では、既存のIoTを活用した漏水検知システムが富山県に最適化されていないことから、富山県オリジナルの漏水検知システムを作ることを目的として活動しました。

まず、射水市内の漏水検知センサー装置作業現場を見学し、設置したセンサーの計測データの分析を行いました。そこから、漏水検知システムの精度上の課題とシステム運用上の課題を発見・指摘し、課題の解決が必要であることを提起しました。また、企業担当者の方と意見交換や質疑応答を行い、積極的に地域課題の解決に向けた道筋を探しました。今後の展開としては、県企業局やシステムを開発されている企業の方と共同で、より使い勝手の良いソフトウェアの開発に積極的に取り組む予定です。



小矢部市の山間部における

大気環境観測2022

渡辺専門ゼミ



東アジア地域より大気汚染物質が越境輸送されていますが、2020、2021年はCOVID19による中国のロックダウンの影響などにより大気汚染が改善しました。しかし、経済活動の再開により再び元の状態に戻ることが予想されます。そこで、小矢部市山間部において、エアロゾル粒子、オゾン、二酸化硫黄の測定を行いました。

測定結果から、2020、2021年には減少していた微小粒子個数濃度が、2022年では増加したことがわかりました。また、二酸化硫黄濃度は2021年より増加しており、工場の再稼働や火山活動による影響を受けていた可能性が考えられます。今回の観測から、新型コロナウイルスにより人々の経済および産業活動が減少し、大気汚染が一時改善されたが、社会の動きが活発になるにつれ、大気汚染濃度は新型コロナウイルス流行以前と同程度に戻ったと考えました。

とやまでSDGsを考える

「ターゲットと指標から」

中村(秀) 専門ゼミ

中村専門ゼミでは、SDGs(持続可能でより良い世界を目指す国際目標)の達成を目的とした地域団体「PECとやま」と協働して、富山を持続可能にするためのターゲットと指標について学び、考え、意見交換しました。

参加学生は、「1.貧困をなくそう」「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「15.陸の豊かさを守ろう」の3つのゴールに着目しました。貧困問題は、数値化しなければ分からない隠れた貧困が存在しているため、それらの実態を把握し、世帯に応じた支援を行うべきと思われました。エネルギー問題は、富山の長所と短所がはっきりしており、対策すべき点が明確と考えられました。陸の豊かさを守るためには、外来種の駆除を早急に行う必要があることを学びました。学習・協働を通して、富山が現状抱える課題を理解し、どのような解決策が必要か考えることができました。



地域協働支援室ロゴマーク完成!

地域協働支援室の新しいロゴマークが完成しました。このロゴマークは、県内の大学生によるデザインです。

地域協働支援室を通して地域から様々な成果が生まれていく様を富山県立大学のロゴにも使われている「T」に見立てたマジシャンのシルクハットで表したデザインです。山、太陽、花は「富山、地域から生まれていく希望、成果」を象徴しています。



デザイン：前田七渚

**富山市中心街地の活性化について
Instagram “Reels” を
用いた情報発信**

濱トピックゼミII

濱トピックゼミでは、富山市西町商店街振興組合と協働し、富山市中心市街地の活性化に取り組んでいます。今期はInstagramの“Reels”機能を用いた情報発信を行いました。



まず、10月に西町商店街の歴史を学び、現地を見学して、リールを作りました。11月には、大和富山店SNS担当の戸田未来さんより動画によるPRについてご教示いただき、また、本企画にご参加いただいたお店の方にお話を伺いました。12月には、事前に考えたリール構成をもとに各お店を取材し、リールを作成し、SNSへのアップロードを行いました。1月には、SNSの反応を確認・分析し、改善点を検討しました。

この活動を通して、地域の関わりや、人と人とのつながりの深さを肌で感じることができました。

富山の魅力を伝えるアプリの開発

中田・西原トピックゼミII

中田・西原トピックゼミでは、富山の魅力を伝えるアプリ開発を行いました。この取組みの背景として、本学では県外出身学生はともかく、県内在住でもあまり良く富山県内のことを知らない学生がいます。このような学生に、富山県の魅力を知って貰うために、新入生に対して配布することを想定したアプリ開発に取り組みました。

まず、アプリ開発プログラミングについて講義で学び、その後、廃校になった小学校を活用した施設（魚津片貝コミュニティセンター・毛勝の郷シエルピース）にて、1泊2日のハッカソン合宿を行いました。9班それぞれが、クイズやガチャ、パズルを盛り込むなど、多彩なアイデアを元にした魅力的なアプリを開発実装しました。



**ドローンを活用した小中学校向けの
体験型プログラミング教材の開発
―射水市内の小中学校への展開―**

岩井専門ゼミ



岩井専門ゼミでは小中学校向けのプログラミング教育のモデルを提案することを最終目標として活動しています。小学校でプログラミング教育が実施されて2年が経過しましたが、パソコンを限定された簡単なシミュレーションに限定されており、ロボットやドローンの活用事例はほとんどありませんでした。その現状を変えるべく、今までに習得した技術を生かし、小中学校向けのプログラミング体験教室を企画し、射水市内の小中学校7校、中学校1校で実施しました。小中学生にプログラミングの楽しさを広めることはできましたが、様々な課題も浮かび上がってきました。実施校が小規模な単学級小学校に限定されるなどが挙げられます。そのような課題を解決するため、活動は今後も継続予定です。

地域で学ぶフィールドワークの様子



【五箇山】



【小杉旧町】



【県営渡船】

視覚障害者を対象とした 科学体験教室の実施と評価

本吉専門ゼミ／プレゼンテーション演習

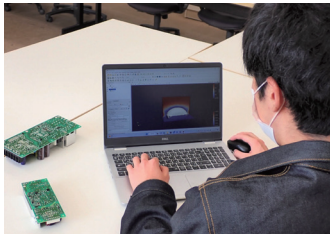


富山県全域、および石川県の視覚障がい者支援学校に通う生徒を対象とした科学体験教室「科学ヘジヤンピン北陸2022」において、タンジブルなツールPICEUBE3を使用したプログラミング体験教室を実施しました。初めてプログラミングを体験する参加者を意識した課題設定、授業のシナリオ作成から実施体制までを学生が主体的に計画、管理し、授業の最後には自身が考えた発話プログラムをすべての参加者が作って楽しめるようになりました。このほか、視覚障がい者にメタバースや物体の浮力を体験してもらう授業運営の補助も行い、視覚障がい者教育のスペシャリスト（外部講師）のスキル的一端を学ぶことができたほか、支援教育の現状への理解を深めることができました。

クラウドコンピューターを活用した シミュレーション技術の開発と地域企業支援

中川プレゼンテーション演習

中川ゼミでは、地域企業の技術課題を最新のデジタル技術で解決することに取り組みました。必要な時に必要な量の高性能コンピュータを利用できるクラウドコンピューターを使い、一般的なPCの何十倍も高速に計算するための方法を学び、活用しました。



電子機器を開発・製造する県内企業を訪問し、小型化が進む電子機器の製造における問題点を学びました。シャープペンシルの芯のカケラより小さな部品を多数並べて自動的にハンダ付けするとき、溶けたハンダの流れと部品の動きを予想することが必要です。

そのために、複雑な偏微分方程式を連立して高速に解くことができるオープンソースソフトウェアを使用しました。低コストで高度な技術計算が可能となりました。

富山の食を盛り上げる

Core Creative Manager (CCM)

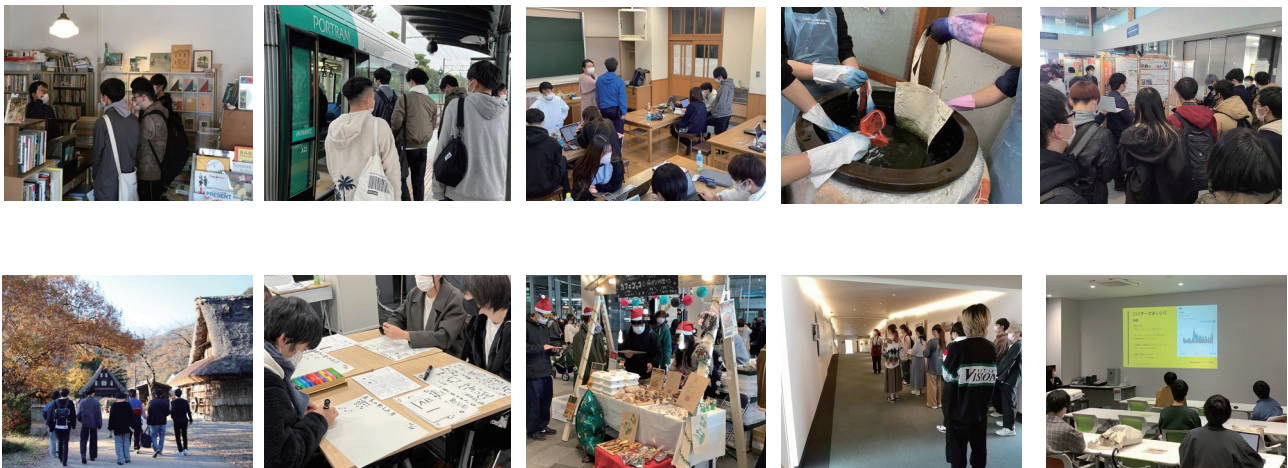


CCMでは、富山の食を盛り上げ地域の活性化につなげるため、アプリやSNSを活用した取り組みを行いました。3つの活動の成果について紹介します。

「スマ食」は、オンラインメニューブック、モバイルオーダーを可能としたシステムです。約50店舗に営業に伺い、掲載店舗数20店舗を達成しました。また、自分たちのみでモバイルオーダーのシステムを完成させました。

「トミスペ」は空きスペースを持つお店と広告主とのマッチングサービスです。お店は無料で空きスペースを登録し、収益化することが出来ます。富山県立大学生もイベント開催時などに活用が可能です。

「ミルミール」は富山の飲食店のグルメを発信するインスタグラムのアカウントです。3400フォロワーを達成し、「スマ食」や「トミスペ」へのユーザー獲得にも活用しました。



「ロボットが社会でどう活用されていくか」をテーマとした小学生向けロボットプログラミング教室

増田トピックゼミII

増田トピックゼミでは、学童藤ノ木メルシーの協力のもと小学生（2〜4年生）を対象として「ロボットが社会でどう活用されていくか」というテーマでロボットのプログラミング教室を実施しました。



将来、現在ある仕事の一部や職業が、ロボットやシステム（AI）に置き換えられる可能性が指摘されています。学生達は、「スパイがロボットになる」と「配達がロボットになる」というテーマで、それぞれ子供達にLEGO SPIKEを使ったロボット製作とプログラミングを教えました。子供達は、ロボットを組み立てて、思い通りに動くようプログラミングを試行錯誤しながら楽しんでいました。今後も、ロボット教室を続けていく予定です。

藍染めを通じた村おこし事業への参加体験

日比トピックゼミII

日比トピックゼミでは、魚津市鹿熊集落TUNAGU Project（会長 南部歩美）と協働し、集落の不作付地にて藍染め染料の原料作物「タデアイ」を栽培し、染料である「菜（すくも）」に加工する体系を確立し、オー鹿熊産の藍染め「Kakumabule」のブランド化を検討しました。

これまでの活動において、鹿熊産「タデアイ」を自家発酵すること、十分に色素（インディゴ）を含む「菜」を製造する手法を確立して行いました。今回、この鹿熊産「菜」を染料に用いた、オール鹿熊産の藍染めに初めて挑戦しました。

藍染めを行った生地は、既存のものと比較しても遜色のない発色を示すことが確認できました。今後この「Kakumabule」ブランドを、藍染め製品を通じて広く周知して行く予定です。



COCOS 活動紹介

後期のCOCOSはLINKtopos2022への参加、カフェしえるとの協働、オレンジリボン運動に参加するなど、多様な活動を行ってきました。

まずLINKtopos2022では、防災や災害、地域活動について全国の学生が京都府福知山市に集まり、テーマ別ワークショップ等を通じて交流を深めました。中でも水害対策と復興の歴史について学んだ、町歩きと講演会、学生間のディスカッションは、COCOSの活動だけでは得られない考えや新たな経験をすることができました。

県大近くにあるカフェしえるとは、前期から継続して協働しています。後期はまず、県大祭でカフェしえるとのフルーツフォンサンドと角煮パイを販売し、COCOSが作成したお店をPRするチラシの配布も行いました。また、10月に開催された「しえる祭」では天文部と協働してプラネタリウムを上映しました。今後も、黒河地区活性化の一環としてカフェしえるとの更なる盛り上げのために出来ることは何か模索していきます。

子ども虐待防止のための、オレンジリボン運動では、11月に富山短期大学が主催するオレンジリボン啓発ブースに参加しました。運動への参加の呼びかけや、参加者と共にオレンジリボンやオレンジ色の折り鶴の作成を行い、運動に関するチラシやパンフレットの配布も行いました。多くの方々におレンジリボン運動について知っていただけたのではないかと考えています。

COCOSでは今後も多様な活動を予定しています。地域の課題を地域の方々と一緒に考え、解決できるよう取り組んでいきます。

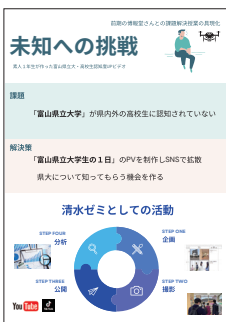


令和4年度後期 地域協働授業成果発表会

令和5年1月19日(木) 11団体、20日(金) 5団体がポスターセッション形式で成果発表を行いました。本学学生、教員、地域の関係者など2日間で200名弱(対面+オンライン)の参加がありました。



ー 出展ポスター例 ー



【第1日目】 1月19日(木)

- ① 「小杉 de まちづくり con 古写真」
教養ゼミⅡ (教養教育 小林一也 教授)
- ② 「クリスマスマーケット in TOYAMA を開催して」
教養ゼミⅡ (教養教育 金城朱美 准教授)
- ③ 「未知への挑戦 - 素人1年生が作った富山県立大・高校生認知度UPビデオ -」
教養ゼミⅡ (教養教育 清水義彦 准教授)
- ④ 「言語学習支援ボランティア (特製英語トランプの作成および児童英語教室の実施)」
教養ゼミⅡ (教養教育 山崎大介 准教授)
- ⑤ 「DX/IoT を活用した県内水道管に適した漏水検知システムの探索」
研究室 (機械システム工学科 寺島修 准教授)
- ⑥ 「ドローンを活用した小中学校向けの体験型プログラミング教材の開発
- 射水市内の小中学校への展開 -」
専門ゼミ (知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ⑦ 「小矢部市の山間部における大気環境観測2022」
研究室 (環境・社会基盤工学科 渡辺幸一 教授)
- ⑧ 「富山でSDGsを考える：ターゲットと指標から」
専門ゼミ (環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ⑨ 「富山の食を盛り上げる」
Core Creative Manager(CCM)
- ⑩ 「POLYGON のプロダクト紹介」
POLYGON
- ⑪ 「COCOSの活動紹介」
地域協働研究会COCOS

【第2日目】 1月20日(金)

- ① 「富山市中心市街地の活性化について -Instagram"Reels"を用いた情報発信」
トピックゼミⅡ (教養教育 濱貴子 准教授)
- ② 「富山の魅力を伝えるアプリのハッカソン」
トピックゼミⅡ (情報システム工学科 中田崇行 准教授・西原功 講師)
- ③ 「DX/IoT を活用した県内水道管に適した漏水検知システムの探索」
研究室 (機械システム工学科 寺島修 准教授)
- ④ 「POLYGON のプロダクト紹介」
POLYGON
- ⑤ 「COCOSの活動紹介」
地域協働研究会COCOS



協働した方々の声

地域

NPO法人プラスワンえみふる

竹越保子

初めての協働取り組み

「若い学生さんが、私たちおばちゃんの話なんて聞いてくれるのかな…」そんな思いで始まったのがCOCOSさんとの協働取り組みでした。

私たちは、県大の近くで、なんらかの障がいを持った方の働く場として、カフェしえるの運営をしています。

以前から、カフェしえるでは「地域とのつながり」をテーマにして支援に取り組んでおり、今回の学生さんとの出会いは、すごくラッキーでした。

大学構内では弁当販売のお手伝い、ダ・ヴィンチ祭ではしえるのスイーツ販売、しえる集客用のクーポン券を作成・配布をしてもらいました。それと、図々しく学内生協にお菓子を並べてもらうなど、してもらいました。

また、私たちのしえる祭にも一役買っていただき、いろいろな形でCOCOSさんと協働させていただくことができました。

「地域とつながるってどんなこと?」

私たちは、えみふるに通う方々に限らず、何らかの障がいをお持ちの方が、当たり前前に生活できるようになってほしいと思うのです。でも「心のバリア」の問題は複雑です。障がいのある方と日常的に接することに、戸惑いや特別感を感じる人は少なくないと思います。自分とは違う状況にある人ともコミュニケーションが取れ、困りごとなどを理解する気持ちと余裕のある心が、少しでも地域の方に広がってほしいとの思いで日々の活動をしています。

今回の協働取り組みは、学生さんや地域の方々への架け橋になったのではないかと感じています。今後もいろいろな形で交流や協働をさせていただければと思っています。

COCOSさんの益々の御活躍に期待しています。

地域協働スキルアップ講座

地域協働の現場で役立つスキルを学ぶ講座を開催しました。学生だけでなく教職員の参加もあり、様々な交流がうまれた機会となりました。

グラフィックレコーディング講座①②



① 2022年11月21日



② 2022年12月19日

コミュニケーション講座



「資料が雑でも分かりやすくするズルい話し方」
2023年1月16日

【講師：山口翔太さん】

【講師：佐々木優太さん】

オレンジキャンペーン in 射水
がんばる女性をみんなで応援(3月1日〜12日)

3月8日の国際女性デーに合わせ、女性のエンパワーメントやジェンダー平等について啓発するキャンペーンを、射水市、アランマーレ富山、本学が連携して実施しました。

今回からの取り組みとして、市中央図書館での特設展示のほか、本学を会場にしたアランマーレ富山応援パブリックビューイングを行いました。



CBLnews
バックナンバー



公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室
http://tpu-cbl.net
〒939-0398 富山県射水市黒河 5180
射水キャンパス (中央棟 1階 N-103)
TEL:0766-56-7500 (内線 1255) FAX:0766-56-8022
E-mail:kyodo@pu-toyama.ac.jp

発行：令和5年3月

